

第3回岡崎市総合計画審議会 会議録

日 時

平成31年2月6日(水) 13:30~15:30

場 所

岡崎市役所東庁舎4階第二来賓室

出席委員及び欠席者

(出席委員)

NPO岡崎まち育てセンター・りた 事務局長	天野 裕	委員
岡崎商工会議所 会頭	大林 市郎	委員
岡崎市医師会 会長	小原 淳	委員
国土審議会 会長	奥野 信宏	委員
岡崎市総代会連絡協議 会長	神尾 明幸	委員
岡崎信用金庫 理事	河原 一夫	委員
岡崎市農業委員会 会長	小久井 正秋	委員
岡崎市農業委員会 会長	小林 正幸	委員
岡崎市観光協会 会長	志賀 爲宏	委員
愛知県西三河民事務所 所長	丹羽 邦彦	委員
岡崎市教育委員	福應 謙一	委員
愛知産業大学 学長	堀越 哲美	委員
名古屋大学 教授	森川 高行	委員
ミクスネットワーク(株) 常務取締役	森崎 健吾	委員

(欠席委員)

あいち三河農業協同組合 代表理事組合長	天野 吉伸	委員
男女共同参画推進審議会 委員	鬼武 孝江	委員
岡崎市 副市長	寺田 雄司	委員
岡崎大学懇話会 会長	寺部 暁	委員
名古屋大学 教授	福和 信夫	委員

(事務局)

総合政策部 部長	山本 公德
総合政策部 次長	永田 優

総合政策部企画課	副課長	岡田 晃典
総合政策部企画課	副課長	加藤 健一郎
総合政策部企画課	係長	鈴木 昌幸
総合政策部企画課	主事	鈴木 達耶
総合政策部企画課	主事	藤井 聖士

(傍聴者)

2名

次第

1 議題

「第7次岡崎市総合計画策定の進捗状況」

「岡崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」

2 その他

<会議要旨>

《議題》

事務局より、「第7次岡崎市総合計画」について説明。

【各委員の主な意見】

- 岡崎市では、スーパー・メガリージョン構想に伴う名古屋駅周辺整備に関心が強いと聞いている。先週、その概要が決まり発表された。その中心となっている、堀越委員と森川委員がいらっしゃるので簡単に概要を説明したい。
- 名駅周辺の整備については、6年前から大まかな構想を作るための協議会が設立され、協議を続けてきた。3年前、大まかな方向が決まり、その後実施計画に向けて各分野別で詳細な検討がなされてきた。
- 駅東側は、開放感のある広い空間を作ろうという方針である。駅前の大きなモニュメント「飛翔」は撤去し、左右の名鉄ビルまで1面の広い空間となり、人が歩く空間となる。栄側に出るとずっと道が続くようになる。地下も整備され、右側の名鉄ビルは取り壊し、全長400mの巨大ビルが2022年から工事に入る。整備は段階的であるが、2027年までには概ね出来上がっている予定である。
- 駅の西側も、左右の空間は広がる。地下は、B1にエスカ、B2にバスターミナル、B3に駐車場を整備する。そこから名古屋高速黄金出入口までの専用道路が整備され、アクセスが良くなる。駅東側には、洲崎橋に新たな出入口を整備する予定である。
- 名鉄名古屋駅からあおなみ線のホームへ直接行けるように、コンコースを設置する。駅

前は SRT (Smart Roadway Transit) を整備し、名古屋駅、栄、名古屋城、産業技術記念館など名古屋の中核部分を周って、市街に出て行けるようにする議論がなされている。

- かなり詳細に検討が進んでいるが、一方で駅周辺の細かい区画整備についてはシビアになってくることが予想される。東京の丸の内においても、長い間工事の塀に覆われていたが、撤去されると皇居までの広い空間が出現した。そこには城はないが、名古屋では栄から名古屋城まで見渡せる景観が検討されている。
- 岡崎市との関係でいうと、品川ー名古屋間が 40 分くらいであるので、何らかの影響はある。名古屋駅は東口と西口で性格が異なるため、それを上手くフォローしようとしている。東側は大きな企業が進出し人々の乗り換える空間が中心、西口は新幹線とリニアの乗り換えや、地元のサブカルチャー文化を重視するまちづくりを一体的に整備していきたい。東は産業的な関わりと商業環境という姿絵が展開されている。
- 名鉄名古屋駅の改装については、報道の通り、2 線 3 面でアクロバティックに列車処理しているものをかなり変え、線数も増やし分かり易くする。岡崎方面に向かう名鉄本線の列車も乗り易くなるだろう。
- 高速道路のアクセスに関しても、名古屋高速を介して東西を直結に近い形でアクセス可能とする。
- 西側の駅広場部分に新たに 2 棟建てるビルには、高級ホテルを誘致する計画もある。これは、岡崎市をはじめ近郊の都市にとっては、名古屋市に人を吸い取られる可能性も考えられる。
- 長らく遅れていた名駅の西側の開発も、これらを起爆剤としてかなり進むと思われ、名古屋市内はもとより近郊の名古屋都市圏の中でも、より名駅への集中が進むだろう。
- 名鉄ビルのバスターミナルも全面的に改装され、キャパシティも拡がり、階高は上になる可能性が高いのだが、バス乗り場は便利になると考えられる。新たな路面交通機関 SRT は、線路を引かずに道路をタイヤで走るが、サービス、速度、視認性、乗車定員等は LRT (Light Rail Transit) に近いものを考えている。この技術は岡崎市にも十分応用できるものかと思う。
- 以上のことがらについても本日の発言の参考にして頂きたい。金山も、市民会館の建て替えやアスナル金山の 25 年の定期借地権が (2020 年に) 切れるため、変わっていく可能性がある。
- 名古屋駅東側は 2027 年までに全面完了したいと名古屋市は考えている。西側は同時期までには難しいが、基本的な部分は完了したい考えである。
- 岡崎市は人口が増えており、減少するペースも全国より遅いという認識である。その原因がどこにあるのかを考えることが重要である。住みやすいということもあるが、転出入の数値 (誰がどこへ転出しているか) を見ると、豊田市や安城市からの転入が転出より多い。これは、トヨタ自動車をはじめ製造業で働く人が、岡崎市を居住地として選んでいるものと推測できる。

- トヨタ自動車の人も工場があるところには住みたくないため、岡崎市がいいという話を耳にすることがある。この話と先ほどの統計データが一致するように思われる。商業施設もあり生活には困らない、自然環境はいい、歴史・文化も強みである。これをベースにして基本計画を立てることは賛成である。
- もう一つ岡崎市の特性として、中小企業をはじめ製造業の立地に適している土地がある（阿知和と額田）。額田地区は人口減少に困っており、限界集落に近いところも出ているが、開発次第で人口減少への対策ができるのではないか。額田地区は、工場の配置やその従業員の住環境に適していると考えられるため、整備することでさらなる発展が期待できる。
- 岡崎市の地盤が非常に良いことも強みである。安城市、西尾市、刈谷市などでは国道 23 号沿いの水田を埋め立てて工業団地を造成しているが、それらと比べたらはるかに安全性が高い。南海トラフ地震を想定した場合、額田地区は愛知県の製造業を守るのに非常に適した立地である。トヨタ自動車は豊田市と岡崎市にまたがる地域に新研究開発施設を建設しており、通勤者の住宅地としても額田地区はいい。
- 岡崎市には名鉄本線が通っている。県が名駅 40 分圏内に力を入れて開発しようとしているのであれば、岡崎市がその対象になることも大いに考えられる。本宿にアウトレットができることもあり、商業の発展も期待できる。もう少し額田地区に焦点を当てた開発を盛り込み、論点を整理した上で明記してほしい。具体的に書かなくては、実際の計画を実行できない。
- 「安全・安心なまちを作る」という言葉だけではなく、具体的な策をどのように取るかが重要である。自治会加入率は 90% で、他の自治体と比較して高いということだが、6 年前は 92% であった。自治会加入率を高めることは、岡崎市の基盤づくりの一端であると考えられる。町内がまとまることで、安全なまちづくりのもとになる。
- 姫路市の加入率は 97% と高いが、その原因は、市の窓口（出生、転籍）でも自治会の必要性、加入メリットを説明し、ある程度強制力を持って進めているからである。自治会の利点がわからず加入しない市民に対して、岡崎市は個人の自由だという回答をしている。
- 岡崎市が一体となってまちづくりを進めていくには、転入者に対して意識を植え付けることが必要である。ごみ問題への対策として、新しいアパートの住民には自治会加入を原則としたところの加入率が高くなった事例もある。新たな住民に対しても一緒になって取り組んでもらうような意識づけが必要である。
- 他の都市のいいところを取り入れて、住民に対して、長期的な視点で岡崎市に住むメリットを示していければ、さらなる人口増加も叶うだろう。我々もできることは協力したい。
- 内閣官房の国土強靱化においても新しい基本計画ができたのだが、この防災・減災のトップにくる施策テーマの一つとして、コミュニティの形成、人のつながりの構築の視点か

ら取り組みを進める方向になっている。平時の楽しみが、有事の強靱化になるという言葉でも表される。

- イベントが多いこと、合計動員数も多いということなのだが、観光客が具体的にお金を落とすような道筋がない。イベントの開催団体と地元の商店街の結び付けが大切ではないか。名鉄のウォーキング企画も年 3~4 回行われており、4,000 名くらいの人に来ていますが、商店が閉まっている。開いていれば少しはお金が落ちるのではないかと思い、もったいなく感じる。
- 国の指定文化財が多すぎて、かえって整備ができていない。整備のための資金が捻出できず、すばらしい文化財も廃れていく。文化財が少なければ、市が中心になって順番でやっていくのであろうが、この点は問題である。
- アンケート調査にて、まちで楽しむことに対するお勧め度合いが低いと出ているが、観光で人を呼ぶ前に、岡崎市民自体が楽しんでいないのではないか。外部から人を呼び込んで、一緒に楽しむような意識があまりない。まずは、住んでいる人が実際に楽しめるような取り組みが必要だと思う。
- 生産年齢人口も全国より高い割合、2035 年まで人口が増加するなど、人口の面では非常に恵まれている。その背景には、製造業をはじめとした西三河の産業構造があると考えられる。自動車産業において、100 年に一度の変革が起こる中で、中小企業がこのままやっていけるのか。後継者難の問題もあり、今後産業構造が変化した場合、この人口推計が崩れてしまう可能性もある。そのような際も観光など異なる産業をもう一つの柱にできるようにしておくことが重要である。また、これらの影響を考慮した場合の具体的な変化の情報もほしい。
- 岡崎市には多くの観光資源があり、観光協会は 2018 年 4 月 1 日付で一般社団法人化した。つまり、観光事業を通して利益を出していいという認識である。せつかくの恵まれた観光資源をしっかりと活用し、観光産業都市化を目指して取り組んでいくことが必要である。各観光地について、駐車場の整備ができてない所も多いと思われる。そこを早急に取り組んでほしい。
- 少子高齢社会で人口減少が進み、高齢者と女性の活躍が求められる中で、65 歳定年が本当にいいのか考える必要がある。
- 各産業においては、人材の確保と定着、雇用の創出が課題となっている。働きやすい環境づくり、また防犯対策としてのカメラの設置などを進めて行ってほしい。
- 観光については、歴史文化はあるが認知度が低い。御朱印帳ブームについても、盛り上がり欠けるところが見受けられる。
- 中部国際空港に名鉄が乗り入れているが、岡崎市を観光地として提案することは容易でない。観光客が移動の途中に立ち寄れる、魅力のある場所となるように PR して頂きたい。東京、大阪をはじめ、国際空港を持っている所は、外国人観光客が爆発的に増えており、消費も爆買いからコトの体験へと変わってきている。外国人については、都市定着と

交流の視点を併せて分析を進めて頂きたい。

- 女性を重視したいと言いつつ、審議会に女性がいない。女性の意見もしっかり聞く必要がある。岡崎市をオープン・リビング都市と考えたときに、その中には当然母親も娘もいる。
- 資料では、犯罪・交通事故が少なく治安が良いとされているが、ここ数年は岡崎市が県内でワーストになっている。もし、治安の良い都市と謳うのであれば、どうすれば減少するのか、侵入盗、死亡事故を一つでも減らす方法を具体的に考えながら進めていく必要があると感じた。そのためには、警察や自治会組織との連携が必要になるのかもしれない。
- 岡崎市が働き手や観光客として外国人の受け入れをする意思があるならば、来やすい環境づくりが大事である。外国人に一番言われるのが、Wi-Fi 環境が非常に悪いことである。彼らは当然、フリーの Wi-Fi スポットを望んでおり、ハード面も含めた環境整備を進めていく必要がある。
- オープン・リビング都市がカタカナなので、わかりにくい。日本的に言い換えれば「開かれた縁側の都市」などがイメージしやすい。「縁側」は市民のなじみがあるような言葉で、その場所には生活があって命がある。
- 産業、観光、生活、それぞれにおいて、「大きなモール」に象徴されるような、ポイントとなる施設がある。しかし、車社会であるが故に、それら同士が回遊性を誘発したり、有機的なつながりを持つことが難しい。車がスムーズに動けばよいのだが、渋滞が課題となる。それを解消する方法の一つとして、例えば製造業に携わっている人が帰りに寄れる場所を作り、そこで観光客との境界性が生まれてくることなども考えられる。
- スポットを置くだけではブームに流されてしまう。ポイント的な指標だけに捕われず、全体の議論の中で、常に誰かが「つながり」に気を付けるようにした方がよい。
- 岡崎駅から岡崎公園に続く南北のメイン通りには名鉄の路線バスが走っているが、観光客には利用しにくい。観光都市を標榜するならば、視認性が高く、なじみのない人も鉄道のような感覚で乗れる路面交通手段があるといい。名古屋市が先日発表した SRT のようなものが候補となると思う。
- 西三河全体として、女性が活躍できていない。女性が中心的に活躍できる職場を行政が直接作るとは難しいかもしれないが、製造業の職員（技術者・ハイクラス）が定年後に地元の中小企業とマッチングして、新たなベンチャーなどを立ち上げる手助けはできないか。そうすると岡崎市の特徴を活かした取組を通じて、女性が雇用されることとなり、やがて中心的な役割を果たすことになっていく。
- 地元の中小企業を活かしながら、今後の産業を担っていくような岡崎市発の企業が 2 つ、3 つできると面白い。人材もおり、環境は整っているように思う。
- 60 歳を過ぎると、高いリスクを負いたくはないし、金融機関からの融資も難しくなることから、行政からの支援は重要になってくると思われる。
- 保健医療・福祉については、10 年後でさえ展望がつかない分野である。当業界では、

団塊世代が高齢者になる 2025 年問題がある。長期的にみると岡崎市の人口構成は恵まれているが、そこにいくまでの段階における高齢化率が全国と比べても高い。長期的な視点では支える人間が多いということも言えるのだが、ここ数年で支える人間の比率がかなりのスピードで減っていくことにどのように対策するかを考えていく必要がある。

- 岡崎市は昔から働くまちというよりは、暮らすまちである。それなら尚更、保健医療を充実させていかななくてはならない。
- 現状は、病床数は中核市で最も少ない。実際に、アンケートの「住みやすい」の理由に、健康や福祉は全く出てこない。出てこないというのは、「可もなく不可もなく」ではなく、医療従事者も住民も半ば諦めている状態であるとする。このような現状が、計画などの前面に出てこないこと自体が医療過疎であると感じる。住みやすく、暮らしやすいまちの大前提として、健康福祉をどのように成熟させていくかは考えなくてはならない視点である。
- 過去の岡崎市の住みやすさを引きずっているだけで、中身は崩壊しつつある場合もある。三世代が同居や近居をしても、高齢者の面倒を見られる状況なのかは別の問題である。民生委員なども後継者がいなくて困っている。
- 転入超過で生産年齢人口が多いということは、高齢者世代と年少世代が同一世帯ではない可能性が高い。岡崎市を 1 軒の家と考えれば、働き手がいて、高齢者がいて、子どももいるというのが本来だが、実際には、働く世代と子ども世代は、おじいちゃんとおばあちゃんとなりがつながない大きな家となり兼ねない。そのような状態での健康や医療をどうカバーするかが課題である。
- 医療福祉は慎重に考えていかなければならない。その時々状況によって必要病床数などの評価が分かれてくる。丁寧に書いて頂きたい。
- 岡崎市の魅力の一つに学校教育があると思っている。小中学校における空調設備の整備が前倒しで進んでいることは適切であり、うれしく思う。その経緯として、平成 30 年度 7 月予定の行事が暑くてできず、9 月さらに 10 月と延期したことが挙げられる。空調環境を整えば、外での競技は難しくとも室内での学習なら可能になる。
- 教育委員会では、「キッズデイズ」と称して秋休みを設定した。10 月 2、3、4 日の 3 日間を休みにして、球技大会や新人戦を行っていききたい。参加する子どもたちにとっては活動の場となり、参加していない子どもにとっては家庭での生活となる。その実現には家族の協力も必要となる。一方、8 月 28、29、30 日を出校日にして対応する協議を進めている。いかに岡崎市の教育をブランド化して外に示していくかが重要である。
- 働き手となる外国人が入ってくれば、それに伴い子ども達も入ってくる。外国籍の子どもには就学義務がないことから、就学年次になっても就学していない場合があり、対応が必要となる。子どもに日本語教育をして、子どもを通して親も地域との交流、保護者との連携ができるようにする。子どもたちが住みやすくなると学校全体も落ち着いた雰囲気になり、波及効果があるとする。

- 文部科学省が提言しているが、安全教育を徹底していく必要がある。自治会や老人クラブ、PTA など色々な地域との結びつきを重視していきたい。そこに関わることによって、子ども達の生活の場も安定する。将来的にも子どもが安心して過ごせる地域を作りあげることが重要である。安全が安心になり、安住につながると考える。
- 全国単位で外国人が増えてくるので、大都市だけではなく地方でも否応なしに対応が迫られる。名古屋市志段味のインターナショナルスクールは受け入れがひっ迫している。研究者や航空機開発者も増えており、その子どもの対応も必要になってくる。アメリカ人は、単身ではなく家族で来ることが多いため、西三河にもインターナショナルスクールが必要と考える。
- 全体を良くするにはどうしたらよいかの具体策が出ていない。簡単にはいかないと思うが、車の渋滞があるまちが暮らしやすいとは言えない。通勤・通学時間帯は特に渋滞が激しく、本宿にアウトレットができればさらに増えることが予想される。一番のネックである国道1号を高架にするくらいのビジョンが必要である。市から県、県から国へと上げて行ってほしい。すぐにはできなくても、声を挙げていくことが重要である。
- そうすることで非常に暮らしやすくなるだろう。交通事故もほとんどが県外車との間で起こっており、事故が減る可能性もある。現状では、農家が通勤時間帯に農作業に出られない場合もある。
- 自治支援という表現は何かがわかりにくいので、もう少しわかりやすい言葉がよいと考える。6次産業化など農林業については、別建てで考えてほしい。産業・商業は強く書かれているので、農林業についても、もう少し書いて頂きたい。額田地区を工場用地として開発するのか、今ある自然を生かして、住環境を整え、住みやすい場所としていくのかも考える必要がある。
- 女性、高齢者の活躍だけでなく、障がい者支援も加えて考えてほしい。障がい者の中でも、重度でない方は自分で働いて生活ができるようなまちにしていきたい。
- アンケート調査では、これまでのまちづくりで最もよかったことは、「イオン岡崎の開業」とあるが、イオンを作ることがまちづくりの方策として、今後も良いとは限らない。イオンは別の所にもあり、イオンがあるから岡崎市に住み続けよう、行こうとはならないのではないか。
- お勧め度合いについて、マイナスとなっている項目を見ると、観光で食べていけるまちであるとは思えない。私の認識では、デートや遊ぶ場所、多様性もあると思っている。自身の認識とデータとの差は、「市民自身がまちを楽しめているかどうか」という部分に関係しており、この点が観光産業都市への一番の障壁であると考えます。
- オープン・リビング都市は、岡崎市のまちの姿を思い浮かべる上ではイメージしやすいが、その中にある個々の暮らしはどうなっているかまで考えを巡らせることが重要だと考える。
- リバーフロントのまちづくりにおいても、康生通と連尺通を使った社会実験を行って

いる。課題は多くあるが、世界的に公共空間の使い方を変えていく潮流がある。海外でオープンカフェ、ランニング、ヨガ、BBQ がどこでも見られるように、豊かなまちの使われ方について、まだ可能性が埋もれていると思っている。

- 乙川の河川敷で月 2 回、仕事をリタイヤした高齢者が遊休地を活用して作った農作物を販売している。そこに合わせて、河川敷でランニングをする動きも広がっている。こうした活動が広がっていくことで、上流にある額田の森を守る活動や、おいしいお米、ジビエなども含めた有機的な循環ができてくる。岡崎市が豊かで多様なものがあることに気づかされた。
- アンケート結果をみると、このような魅力を市民が把握していない。外から人が来てもらうことも大切だが、中の人自分たちのまちの魅力を説明でき、誇りに思うような状態が大事である。アンケートのデータはチャンスと捉えた。
- 資料 2 に関して。今のままだと産業を守るイメージが強く、市民の生活が置き去りになっている感覚がある。市民の暮らしを守ることが、結果として産業レジリエンスにつながっていくことを市が伝えたいのであるならば、もう少しそれが伝わるような記載内容に修正して欲しい。

《議題》

事務局より、「岡崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について説明。

《その他》

事務局より、「総合政策指針条例」について報告

- 平成 23 年 5 月の地方自治法改正を受けて、今年度の 3 月定例会に策定の根拠条例を提出できるよう事務を進めていることを委員の皆様にご報告させていただく。なお、新条例では、現行の総合計画審議会条例を包含するものを想定しており、一部変更点として、委員の数を 20 名以内と定めているところを、本日お示しした 10 年後の目指す姿として分類させていただいた施策の数に近い人数で、なるべく議論がしやすいように改めさせていただきたいと考えている。ただ、本日参集いただいている委員の皆様については、委嘱期間中は変わらず本審議会の委員としてご審議いただくことになる。
- 委員の人数を減らすことについては議論がしやすくなるため良いと思う。ただし、市民の意見を幅広く収集することが重要であるため、市の職員が現場に足を運ぶ、施策分野ごとの審議会等の意見を仰ぐといったことを並行して行ってもらいながら、議論が促進されることを望みたい。

以上